



今回は、「レジ袋」のお話です。

2020年7月から全国一律でプラスチック製レジ袋の有料化が実施され、日常生活の中でマイバッグの持参や「レジ袋は結構です」と辞退する習慣が広がりつつあります。

有料化の背景には、海洋プラスチックごみや地球温暖化などの深刻な環境問題があり、プラスチックの過剰使用を抑制することで資源循環を促進する狙いがあります。

プラスチックも大切な資源という意識を持ち、プラスチックごみの削減やリサイクル活動に社会全体で取り組んでいくことが大切です。

【ここに注目】

一部レジ袋は無料の場合もありますが、必要のない利用は避けましょう。
無料になるケース

- ・厚さが50マイクロメートル以上で繰り返し使用可能と明示されている袋
- ・海洋生分解性プラスチック100%の袋
- ・植物由来の原料が25%以上含まれ、バイオマスマークや配合率表示がある袋
- ・スーパーの精肉や魚コーナーの小トレー用袋など、持ち手のない袋

【関連URL】

総務省 レジ袋有料化について

<https://www.soumu.go.jp/kouchoi/substance/chosei/rejibukuro.html>

環境省 プラスチック資源循環の促進について

<https://www.env.go.jp/content/000253022.pdf>

経済産業省 プラスチック袋買い物有料化

https://www.meti.go.jp/policy/recycle/plasticbag/plasticbag_top.html

認知症地域支援推進員のつぶやき No.90 認知症と共に生きるご家族の「4つの苦しみ」

65歳以上の高齢者の約3.6人に1人が認知症またはその予備群と推計されています。街中で道に迷ったり、料理の手順が分からなくなったりと、認知症の症状は多様であり、ご家族である介護者は日々悩んでいるのではないでしょうか。

「認知症家族の会」創設者が語った、ご家族が抱える「4つの苦しみ」です。

1. 24時間気が休まらず、不安と緊張で心身共に疲弊している
2. 家庭生活の混乱
3. 先々に対する大きな不安
4. 身近に適切な相談機関や理解者がなく、孤立無援の思いになる

特に4つ目の「孤立無援の思い」は、心身の疲弊をさらに深刻化させます。

認知症のご本人は病識がないことが多いため、介護者が問題となる行動を指摘したり、また訂正したりすることは、かえって嫌なことをされたと感じさせてしまうことがあります。介護者は懸命に頑張っていますが、このすれ違いも苦しさを増す一因です。

大切なのは、介護者であるご家族が一人で抱え込まず、その努力や不安を誰かに話してみることです。専門機関や地域の支援、そして周囲に理解者がいることで、「孤立無援」の状況は変えられます。ご家族の不安を少しでも少なくすることが、認知症のご本人にとっては言葉にならない安心につながります。ご本人と共に穏やかに過ごすために、ちょっと立ち止まって思いを聞いてもらう時間を持ってみませんか。

私たちにはここにいます！

認知症地域支援推進員配置施設

●利根町地域包括支援センター ☎ 68-2211

●複合福祉施設 韶 ☎ 61-8500

●利根町保健福祉センター ☎ 68-8291

●介護老人保健施設 もえぎ野 ☎ 84-6081



地域おこし協力隊通信



第14回走りの教室

スポーツ担当の田井です。おかげさまで1月10日に「第14回走りの教室」を開催することができました。合計13名が参加してくれました。皆さまのご協力・ご参加ありがとうございました！新年明けて初の走りの教室だったので、休んだ身体を呼び起す頭と体をフルに使ったリズムトレーニングや、変形ダッシュなどの短距離走を行いました。日に日に上達していく児童を見ていて、関わっていることを大変嬉しく思っております。走りの教室は毎月開催となっております。ぜひ皆さまご参加ください。

また地域クラブ活動「すぽかるとね」事務局では、さらなる内容の充実に向けて、引き続き指導者の方を募っております。スポーツ指導歴がある方や、お知り合いにスポーツ指導が可能な方がおられましたら、詳細を利根町役場生涯学習課までお問い合わせいただけますと幸いです。

「走る協力隊」稻垣鉄平です。今回は12月13日に開催された茨城県民駅伝大会の報告をさせていただきます。7月からこの大会への出場を目標として「TONE駅伝プロジェクト」を立ち上げ、定期的に練習会を実施してきました。当日はメンバーの熱い走りのおかげで、無事にタスキを繋ぎ切りゴールすることができました。結果は出場41チーム中21位と想定以上の好成績でした。今回のプロジェクトを通して、あらためて駅伝や仲間と共に走ることの楽しさや喜び・魅力を感じることができました。来年度もまたこの大会に利根町代表として出場できるようにメンバーと共に頑張っていきたいと思います。

そして最後に、町民の皆さん、応援ありがとうございました！引き続きスポーツまちづくり活動を頑張りますので、よろしくお願ひいたします！



TONE駅伝プロジェクト



こんにちは！空き家担当の藤田です。

地域おこし協力隊として町に来て、「農家さんの空き家（農地付き空き家）の利活用」をテーマに活動を続け、1年半が経ちました。着任当初は珍しい取り組みとして受け止められることもありましたが、現在では賛同してくださる方も増え、町内や役場内でも農家空き家の可能性について話し合う機会が多くなってきました。町の空き家のうち、約100軒は市街化調整区域にあり、土地や家屋を農家以外の方が自由に取得するのは難しいという側面があります。そこで、これから農業を始めたい方（主に就農を志す移住者）に、空き家と農地をセットで活用していただくことが、現実的でスムーズな解決方法だと考えています。国内では年間3～4万人の新規就農者がいるとされており、その可能性は十分にあります。

今後は、町の特産物であるお米づくりについて、移住直後の新規就農者でも取り組みやすい協力体制づくりや、就農者同士のコミュニティ形成、また米に次ぐ農作物の検討なども進めていきたいと考えています。

多くの方に支えていただきながら、任期中に町にとって意味のある形を残せるよう、引き続き取り組んでいきます。



こんにちは！空き家コーディネーターの「ドゥーさん」こと安藤です。

早いもので地域おこし協力隊に就任し、1年半が経過し、最大3年間の任期の半分が終りました。これまで、利根町の空き家の調査、空き家相談会、空き家利活用PJに関わる作業、イベントなどを実施してきましたが、今年も色々とミッションを行なながら報告出来ればと思っております。早速1月下旬には昨年に引き続き「空き家相談会」を実施させて頂きました。

また、1月末には空き家にある竹を利用した竹灯籠を制作し、「トネマチ冬まつり」に参加させて頂きました。今後については、空き家利活用PJをメインにワークショップを実施する予定となっております。先日、リノベーション・DIYなどでよく使われる漆喰の講習会に参加させて頂き、漆喰の性能や塗り方などを学んできました。空き家利活用PJでもその漆喰を利用したワークショップを開催を計画しておりますので、募集が始まつた際には皆さん奮ってご参加ください。その他、このようなイベントをやってほしいなどございましたらご連絡ください。

漆喰